

平成29年7月九州北部豪雨

被害について

～僕たちがみたもの その2～

特に被害が大きかったのは山間部や河川の近くの地域でした。がけ崩れや河川の氾濫により土砂が大量に流入してきたのが原因です。

そして同時に農業や林業が盛んな地域でもありました。手が付けられず支援が必要なところはたくさん見受けられました。



← 大分県^{ひ た}日田市
がけ崩れの様子

がけ崩れは100箇所以上に及び、被害が大きくなった原因のひとつです。重機が入っているところもありましたがまだ復旧はあまり進んでいないようです。

2017年9月5日
神戸大学学生震災救援隊撮影



← 大分県^{ひ た}日田市
土砂に埋まる河川プール

川の水を直接引き込んだ
河川プールのある公園です。
プールが完全に土砂で埋
まってしまった。

2017年9月5日

神戸大学学生震災救援隊撮影

田畑に土砂が流入した場合、土砂を取り除いて新しく土を入れる必要があります。しかし一人では大変な作業です。そして土砂が流入した後時間が経つと、雑草が生えてきます。田畑を使うためには草を刈る必要があります。

復旧作業が追いつかず草が生い茂る田畑が数多く存在しています。規模が大きい事もあり、人もお金も時間もかかるため手付かずのままになっている場所が多い印象です。



ひた
大分県日田市
2017年9月6日

土砂が流入したあと雑草が茂っている畑
神戸大学学生震災救援隊撮影



大分県^{ひた}白田市 草刈りをする様子
2017年9月6日 神戸大学学生震災救援隊撮影



ひた

大分県日田市 土砂が流入した水路

2017年9月5日 神戸大学学生震災救援隊撮影

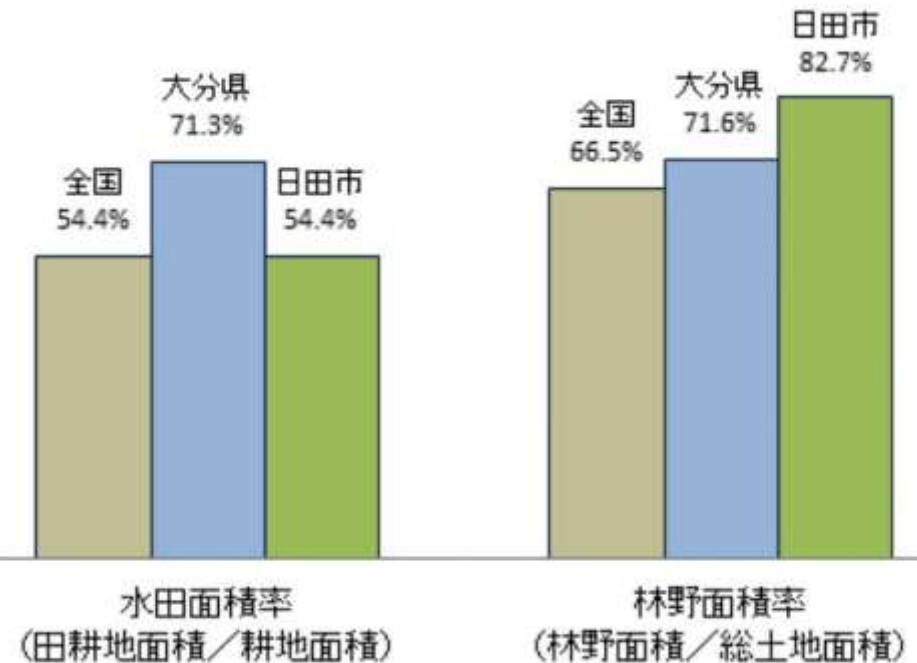


ひた
大分県日田市 壊れたビニールハウス
2017年9月5日 神戸大学学生震災救援隊撮影

水路やビニールハウス、農業用倉庫なども大きな被害を受けました。こちらはまだ手付かずのところが多く見られます。

農家の方には高齢な方も多く、再建が難しい方もいます。また、市や県はまだ被害の調査が完了しておらず農業用地に対する支援も進んでいない状態です。

農用地面積率のグラフ →
出典：農林水産省



大分県^{ひ た}日田市で僕たちが見たものは衝撃的な光景でした。

現地に行く前までは、“復旧はかなり進んでいるだろう”という考えがどこかにあったような気がします。

しかし、被害は大きなものです。いまだ復旧のめどがたっていないところも多いです。この現実はずっと神戸にいたら気にも留めず、知りえなかった事だと思います。

みなさんには、少しでも今回の豪雨水害のことに関心を持っていただければと思います。